

「長寿は人類の願いで、「寿」はおめでたいという意味です。医学や科学技術の進歩などにより、日本は世界一の長寿社会を迎えました。しかし、長寿ゆえにもたらされた負の側面に

も目を向けねばなりません。元気なのに、ものを覚えたり、理論的に考えたりする機能が低下するという認知症もその一つです。中でもアルツハイマー型認知症の発症は、加齢による避けられない現象です。老眼になったり、しわができたたり、髪の毛が白くなったりするのは同じで、入院して治療する病気ではない



太田秀樹理事長

アルツハイマー型認知症

と考えられるようになってきています。だから認知症患者ではなく「認知症の人」と表現することが増えています。

現在高齢者の7人に1人が認知症で、県内にも8万人以上いるといわれています。軽度認知障害(MCI)も入れると、その数はもっと

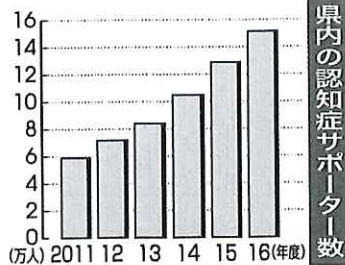
康的な生活を心がけて、長寿を手に入れたとしても、自分自身やご家族が認知症となる可能性は高く、決して人ごとではありません。

そこで、社会全体で認知症への理解を深めてもらうと05年度から全国で「認知症サポーターキャラバン」という活動が始まり、

穏やかな暮らし

と多くなり、2025年には高齢者の5人に1人が、また85歳を超えると2人に1人が認知症になると推計するデータもあります。健

本県でも自治体や企業等が住民や従業員を対象に認知症の人やその家族の応援者となる「認知症サポーター」の養成に取り組みでいま



継続を

す。また、研修を受けた医師を中心とした「とちぎオレンジドクター」(もの忘れ・認知症相談医)を県医師会とともに登録しています。

たとえ認知症になっても、住み慣れた街で尊厳を守られて幸せな人生が送れるように、さまざまな取り組みが行われているのです。

アルツハイマー型認知症の進行を遅くする薬の研究は進んでいます。根本的に治すことはできません。最も有効な認知症ケアは、その人らしく、穏やかな暮らしを継続することなのです。

皆様が認知症の人を正しく受け入れ、徘徊(徘徊)しても、それが散歩(散歩)に変わる優しい街になると安心です。(医療法人アスミス理事長・太田秀樹)